

ロジスティクス環境会議 第3回本会議
(C G L : Conference on Green Logistics in Japan)

2005年3月16日(水)14:00~16:00
ホテルニューオータニ

次 第

第1部 ロジスティクス環境会議

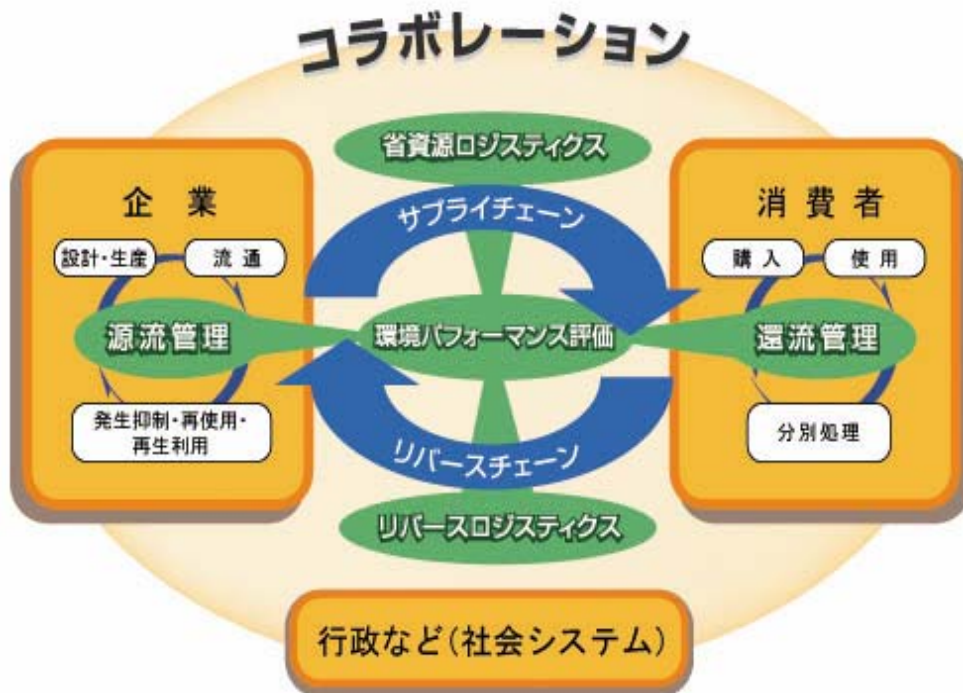
1. 開 会
 - ・ 議長挨拶
2. 経過報告
3. 議 事
 - 1) 2004年度活動報告および2005年度活動計画(案)について
 - (1) 源流管理による環境改善委員会
 - (2) 省資源ロジスティクス推進委員会
 - (3) 共通基盤整備委員会
 - (4) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会
 - (5) リバースロジスティクス調査委員会
 - 2) 企画運営委員会からの提案について
 - 3) 2004年度決算(案)・2005年度予算(案)について
4. J I L Sの今後の取り組みについて
5. 閉 会

第2部 関係各省(オブザーバー)の施策動向

経済産業省
国土交通省
環 境 省
農林水産省

以 上

循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン



調達、生産、流通、消費の諸活動とそれらの過程を経て発生する廃棄物の処理の行為は、環境汚染や環境破壊など、環境に対して様々な負荷を与えます。私達の世代は健全な地球環境と社会環境とを（人類生存の大前提である）最も重要な財産として、将来の世代に引き継ぐ責務を有しています。その責務を果たすべく、ロジスティクスにおいても、環境への調和、環境との共生、環境改善への積極的貢献、を最優先に考えねばなりません。

ロジスティクスには、再使用や循環などの視点に加え、素材の選択や廃棄物の処理のあり方で視野を広げ、環境への負荷に適切に配慮しつつ、費用対効果を最適化することが必要です。

JILS は 21 世紀の循環型経済における、ロジスティクス活動のあるべき姿として「環境と調和した循環型社会を支えるロジスティクス」を提唱します。

循環型の経済活動を、ロジスティクスを通じて実現したいという思いを込めて、「循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン」を提案します。

ロジスティクス環境会議の目的、目標と各委員会の2004年度活動報告・課題および2005年度活動計画(案)

1. 環境会議の方針

- 1) 目的: 循環型社会を実現するロジスティクスの構築 ~ 個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる ~
- 2) 目標: 行政・自治体・大学等の研究機関・関連団体との連携を図りながら、環境と調和したロジスティクス方針・活動を通じて、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取り組む企業を増やす。
- 3) 期間: 2003年11月~2006年3月(第1期)

2. 各委員会の活動方針・活動内容と課題・成果

委員会	活動方針	2004年度活動報告と課題	2005年度活動計画(案)
1) 源流管理による環境改善委員会	<p>(1) ロジスティクスの分野から環境負荷低減に取り組むため、荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業として現状の物流活動をチェックし、見直すための視点とその内容をまとめる。</p> <p>(2) 合意された内容はマニュアル形式に整理し、関係者の環境活動を支援する。</p> <p>【検討のステップ】</p> <p>第1ステップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各企業が守るべきこと(法令、条例遵守事項) ・各企業がやるべきこと及びその対策 <p>ロジスティクス・物流部門が管理・改善可能な範囲</p> <p>第2ステップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各企業がやるべきこと及びその対策 <p>ロジスティクス・物流部門から対他部門への提案 運送業・倉庫業等から荷主企業への提案 (環境負荷低減を実現する物流サービスなど)</p>	<p>【活動(検討)内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業が環境負荷低減活動を促進するための、人材の育成、組織のあり方等の基本方針の検討 ・ロジスティクス・物流部門として環境負荷低減活動を促進するため、物流機能毎(包装、輸送、保管・荷役等)に、関係者が検討および実行すべき項目と内容の検討 ・マニュアルに具体的事例を盛り込むための情報収集 ・環境負荷低減策等の事例発表会の実施 <p>荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業が管理・改善が可能な範囲に注力 各物流機能(包装、輸送、保管・荷役)の流れを整理し、各物流機能間の影響度の確認を行えるようにする。</p> <p>各企業が守るべきこと(法令、条例遵守事項)については、共通基盤整備委員会に検討依頼 (現在、共通基盤整備委員会にて原案作成中)</p> <p>【活動成果】『ロジスティクス源流管理マニュアル ver.1』</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロジスティクス・物流関係部門ならびに物流企業(運送業・倉庫業等)がやるべき内容や、対策等について定量的な把握、評価するためのデータやツールの整備 ・マニュアルの見易さ、読み易さの工夫(絵やグラフを多用することで身近なマニュアルを目指す) 	<p>【活動(検討)内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荷主企業のロジスティクス・物流部門から企画・設計、生産、販売、環境等の他部門への協力要請する内容のまとめ ・物流事業者から荷主企業に協力要請する内容のまとめ <p>【活動成果】</p> <p>『ロジスティクス源流管理マニュアル』のまとめ</p> <p>定量化指標については、パフォーマンス委員会との連携を図り、活動評価項目として記載予定 源流を管理する目的や意思決定者、実行者の明確化および啓発・普及</p>
2) 省資源ロジスティクス推進委員会	<p>(1) 省資源・省エネルギーの視点から、サプライチェーンを構成する荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業等が一体となって物流の環境負荷を低減するため、物流諸活動の事例収集を行い、その内容を整理する。</p> <p>(2) 荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業等が一体となって、課題解決のための方向性をまとめ、関係者に提案する。</p>	<p>【活動(検討)内容】</p> <p>製造業・流通業・物流業等が一体となって物流の環境負荷を低減するためのガイド作成にあたり、各社における環境活動の取り組み状況の把握および問題点・課題の整理</p> <p>委員会メンバーの業種、製品群等により、以下3分野を整理</p> <p>食品 機械器具・精密機器 素材(化学・鉄鋼等)</p> <p>共同化、モーダルシフト等の切口から各社の取り組み事例の収集</p> <p>【活動成果】『省資源ロジスティクス事例集』</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業等が一体となって環境負荷低減とコスト低減の両立化の実現 物流の構造的問題の顕在化および定量化(わが国の高コスト物流体質の原因の解明) 物流企業の活動に着目し、積載率等の物流効率化阻害要因の把握 ・荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業間における問題点の共有 ・サプライチェーンのあるべき姿とその実現策の考察 	<p>【活動(検討)内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調達物流、生産物流、販売物流等のサプライチェーンの全物流プロセスの問題点を荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業から抽出、整理、共有 ・荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業の協議による改善策の検討および実現のための指針のまとめ <p>【活動成果】</p> <p>『省資源ロジスティクス推進ガイドライン』(仮称)</p>
3) 共通基盤整備委員会	<p>環境会議及び各委員会の円滑かつ効果的な活動を支える共通的な「情報資源」を整備する</p>	<p>【活動(検討)内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロジスティクスの視点から、既存の用語集等には抜けている環境に関する用語の収集、整備(WEB版) ・行政、自治体、産業界、学界、団体等の環境、ロジスティクスに関わるURLの整備 ・研究会の実施(4回実施) <p>【活動成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『グリーンロジスティクス用語集』(仮称) ・『グリーンロジスティクスURLリンク集』(仮称) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用語集の定期的な更新とメンテナンス ・環境に関する国際動向(行政、自治体、企業の先進事例等)の情報収集と整備 	<p>【活動(検討)内容と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『グリーンロジスティクス用語集』(仮称) 適宜更新と公開 ・『グリーンロジスティクスURLリンク集』(仮称) 適宜更新と公開 ・『環境に関する国際動向の調査レポート』(仮称) 大使館や在日出先機関等からの情報収集とその整理 ・セミナーの開催(2回/年) ・研究会の開催(1回/原則毎月) など

ロジスティクス環境会議の目的、目標と各委員会の2004年度活動報告・課題および2005年度活動計画(案)

活動方針	2004年度活動報告と課題	2005年度活動計画(案)															
<p>4) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会</p> <p>(1) ロジスティクス活動の環境負荷を低減するため、環境負荷を定量的に把握、評価し、環境負荷を低減するため、標準的な環境パフォーマンスの算定方法と算定に必要なデータを整備する。 (2) 標準的な環境パフォーマンスの算定方法と算定に必要なデータを関係者に提案する。</p>	<p>【活動(検討)内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算定方法の調査(算定範囲、算定式、データ入手方法) ・算定事例の整理 ・標準的な算定方法の検討 <p>標準式: 二酸化炭素排出量(kg) = 燃料使用量(l) × 二酸化炭素排出係数(kg-CO2/l) 準標準式: 二酸化炭素排出量(kg) = [走行距離(km) ÷ 燃費(km/l)] × 二酸化炭素排出係数(kg-CO2/l) 代替式: 二酸化炭素排出量(kg) = [輸送重量(t) × 輸送距離(km)] × 二酸化炭素排出原単位(kg-CO2/t·km)</p> <p>【活動成果】『二酸化炭素排出量算定ガイド(データ収集方法事例集)/輸配送・トラック版 ver.1』</p> <p>【課題】</p> <p>環境会議メンバーによる上記算定式の評価 『算定ガイド』の利用促進(算定の事例、データの入手方法を記載) 二酸化炭素排出係数、二酸化炭素排出原単位に関する標準的な数値の整備およびその維持管理 環境省、国土交通省による実行を要望 按分方法の検討 他のパフォーマンス指標の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包装資材の使用量、廃棄量 ・トラック以外の輸送モードから排出される二酸化炭素 	<p>【活動(検討)内容】</p> <p>以下2つのテーマについて緊急性・波及効果・実効性等の視点からLEMS調査結果の検証後、優先度の確認および具体的な活動(検討)を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・按分に関する基本的な考え方とその方法 トラック輸送に伴う二酸化炭素排出量 ・包装資材の使用量、廃棄量等の環境負荷算定の基本的な考え方とその算定方法 <p>【活動成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『二酸化炭素排出量按分ガイド/トラック輸送版』(仮称) ・『包装資材の環境負荷排出量算定ガイド』(仮称) ・『CGLメンバー企業の二酸化炭素排出量算定データ集』(仮称) <p>提言の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トラック輸送に関わる二酸化炭素排出量の算定式の標準化 ・按分方法の標準化 ・包装資材使用量/排出量の算定方法の標準化 <p>LEMS: JILS 総合研究所による経済産業省委託調査「環境調和型ロジスティクス調査」</p>															
<p>5) リバースロジスティクス調査委員会</p> <p>(1) 循環型社会形成に向けて、今後本格的に必要なとされるリユース、リサイクルに関わるリバースロジスティクスのモデル(あるべき姿)をまとめる。 (2) 消費者における還流管理の促進を含め、リバースロジスティクスモデルの構築が可能となる環境整備を促進するため、関係者に対して提案を行う。</p>	<p>【活動(検討)内容と課題】</p> <p>参加メンバーの問題意識、商品の特性などにより、4分野(品目)を選定して調査を実施(委員会&勉強会9回、見学会3回)</p> <table border="1" data-bbox="834 1119 1819 1776"> <thead> <tr> <th>分野</th> <th>調査活動内容</th> <th>課題・解決方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.家電・OA機器</td> <td>PC・複写機・家電のリサイクル・回収システムについて</td> <td>業界共同静脈物流プラットフォームの構築が必要 添付資料参照 共同化推進の為には、情報等の標準化、包装材の標準化・リターナブル化、ならびに、静脈共同輸送に対する法規制の弾力的な運用の要望</td> </tr> <tr> <td>2.自動車</td> <td>ASR・リサイクル部品・廃タイヤについて</td> <td>ASR: H17年3月の結果をフォロー予定 リサイクル部品: 在庫ヒット率向上のための情報共有化ネットワーク構築と、消費者への積極的なPRが有効 廃タイヤ: 100%リサイクルを目指した、新品販売時の同時回収の実践が有効</td> </tr> <tr> <td>3.食品</td> <td>食品廃棄物のリサイクル状況、返品物流について</td> <td>製造業 卸売業 小売業 外食産業(消費者)の流通工程の流れから見ると、川下になるほどリサイクル率が低いため、分別 共同回収の工夫を行うことよってリサイクル範囲を拡大する</td> </tr> <tr> <td>4.物流(包装資材)</td> <td>パレット・宅配使用包装段ボール箱について</td> <td>リユース・リサイクルの促進が必要 木製パレットの再利用促進と、宅配使用ダンボール箱のリターナブル化を考察提案</td> </tr> </tbody> </table> <p>【活動成果】</p> <p>分野別の『リバースロジスティクス調査報告書 ver.1』(中間報告) 添付資料参照</p>	分野	調査活動内容	課題・解決方向	1.家電・OA機器	PC・複写機・家電のリサイクル・回収システムについて	業界共同静脈物流プラットフォームの構築が必要 添付資料参照 共同化推進の為には、情報等の標準化、包装材の標準化・リターナブル化、ならびに、静脈共同輸送に対する法規制の弾力的な運用の要望	2.自動車	ASR・リサイクル部品・廃タイヤについて	ASR: H17年3月の結果をフォロー予定 リサイクル部品: 在庫ヒット率向上のための情報共有化ネットワーク構築と、消費者への積極的なPRが有効 廃タイヤ: 100%リサイクルを目指した、新品販売時の同時回収の実践が有効	3.食品	食品廃棄物のリサイクル状況、返品物流について	製造業 卸売業 小売業 外食産業(消費者)の流通工程の流れから見ると、川下になるほどリサイクル率が低いため、分別 共同回収の工夫を行うことよってリサイクル範囲を拡大する	4.物流(包装資材)	パレット・宅配使用包装段ボール箱について	リユース・リサイクルの促進が必要 木製パレットの再利用促進と、宅配使用ダンボール箱のリターナブル化を考察提案	<p>【活動(検討)内容】循環型社会形成に貢献できる循環型ロジスティクスモデルのあるべき姿をまとめる</p> <p>全体の進め方: 実態と課題を更に調査把握 あるべきモデルとその実現策の考察 提言(企業・業界・行政・消費者など)</p> <p>提言の方向性: リバースロジスティクスを速やかに構築し、円滑に機能させるため、企業や業界が自主行動(共同化・標準化・リターナブル包装化など)すべき事項 上記活動のために、行政に対する廃掃法を含む法規制の適切・柔軟な運用の要望事項 必要に応じ消費者への要請事項(普及啓発)などを整理する。(行政とは望ましい方向性などについて情報交換の場を設ける)</p> <p>各分野の進め方:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.家電・OA機器 共同化、標準化、法規制などについて、更に詳細調査し、実現策と提言をより現実的なものにする 2.自動車 リサイクル部品・廃タイヤの深堀調査を継続、実現策と提言を更に現実的なものにする ASRのリサイクル法によるリサイクル実績調査と、(問題あれば)解決策考察と提言作成 3.食品 川下(消費者・小売・卸)におけるリサイクル率向上のため、共同回収 再資源化の流れの構築を目指す。実現可能な範囲で、返品物流の共同回収モデルを踏まえた提言も作成 4.物流(包装資材) パレット共同回収の実態および宅配便包装資材の廃棄状況の実態を調査し、リサイクル率向上の具体的策と提言を作成 <p>【活動成果】</p> <p>分野別の『リバースロジスティクス調査報告書』 単なる調査だけに止まらず、分野別の「業界共同循環型ロジスティクス・プラットフォームモデル」の考察、実現策提示までを目指す</p>
分野	調査活動内容	課題・解決方向															
1.家電・OA機器	PC・複写機・家電のリサイクル・回収システムについて	業界共同静脈物流プラットフォームの構築が必要 添付資料参照 共同化推進の為には、情報等の標準化、包装材の標準化・リターナブル化、ならびに、静脈共同輸送に対する法規制の弾力的な運用の要望															
2.自動車	ASR・リサイクル部品・廃タイヤについて	ASR: H17年3月の結果をフォロー予定 リサイクル部品: 在庫ヒット率向上のための情報共有化ネットワーク構築と、消費者への積極的なPRが有効 廃タイヤ: 100%リサイクルを目指した、新品販売時の同時回収の実践が有効															
3.食品	食品廃棄物のリサイクル状況、返品物流について	製造業 卸売業 小売業 外食産業(消費者)の流通工程の流れから見ると、川下になるほどリサイクル率が低いため、分別 共同回収の工夫を行うことよってリサイクル範囲を拡大する															
4.物流(包装資材)	パレット・宅配使用包装段ボール箱について	リユース・リサイクルの促進が必要 木製パレットの再利用促進と、宅配使用ダンボール箱のリターナブル化を考察提案															

ロジスティクス環境会議 環境パフォーマンス

評価手法検討委員会

- ・ 2004年度 活動報告 ・ 課題
- ・ 2005年度 活動計画

荷主



物流事業者

環境負荷低減

負荷の客観的・定量的評価

LEMS

方法の研究・開発

環境調和型ロジスティクス
推進マニュアル

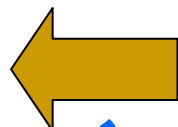
環境会議

方法の実施可能性検討
共通認識
普及

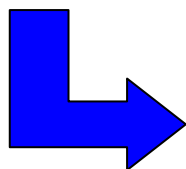
2004年度の検討内容

・CO₂算定方法の調査

(算定範囲、算定式、データ入手方法)

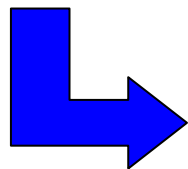


トラックのCO₂に限定

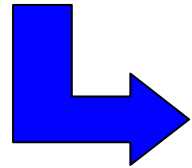


- 1) 算定式がさまざま
- 2) 計算に用いる諸係数がまちまち
- 3) 算出の仕方がわからないという企業も多い
- 4) コストや手間がかからない方法

・算定方法・データ入手方法の調査・整理



- 1) 標準算定式の検討
- 2) 諸係数の検討
- 3) データ収集方法の事例整理



二酸化炭素排出量算定ガイド

- ・CO₂算定方法の標準式
- ・必要なデータを採取する方法
- ・諸係数の値や出典
- ・CO₂排出量の按分方法

2004年度の活動成果

『二酸化炭素排出量算定ガイド
(データ収集方法事例集)/輸配送・トラック版』

標準算定式の提案

標準式
燃料法

準標準式
燃費法

代替式
トンキロ法

データ収集方法事例集

按分方法の考え方の提示

二酸化炭素排出量 標準算定式の提案

■ 燃料法 二酸化炭素排出量 (kg-CO₂)

$$= \text{燃料使用量} \times \text{二酸化炭素排出係数}$$

(リットル) (kg-CO₂/リットル)

■ 燃費法 二酸化炭素排出量 (kg-CO₂)

$$= \left[\frac{\text{輸送距離}}{\text{燃費}} \right] \times \text{二酸化炭素排出係数}$$

(km) (km/リットル) (kg-CO₂/リットル)

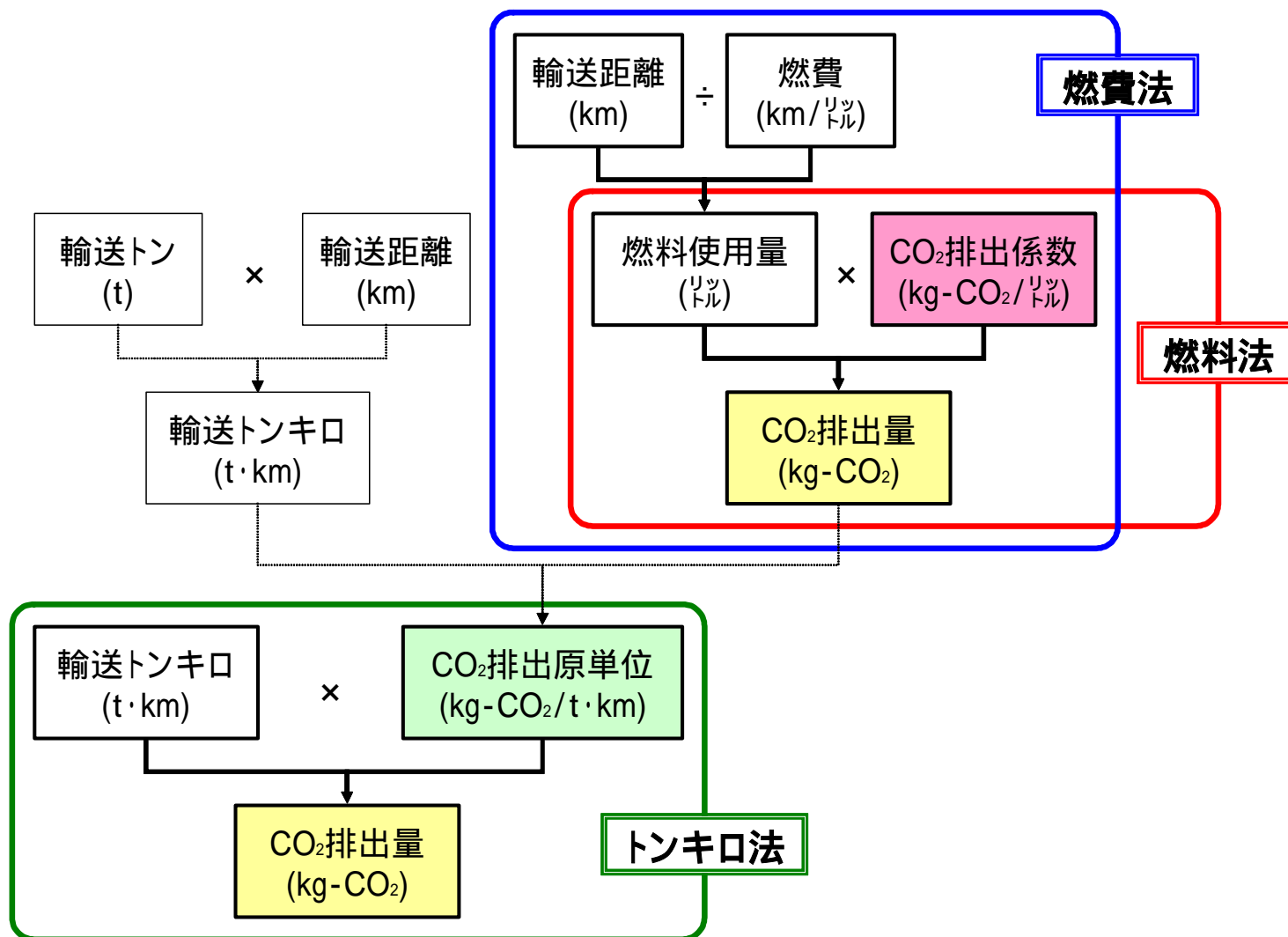
■ トンキロ法 二酸化炭素排出量 (kg-CO₂)

$$= \left[\text{輸送重量} \times \text{輸送距離} \right] \times \text{二酸化炭素排出原単位}$$

(トン) (km) (kg-CO₂/トンキロ)

3つの算定式の関係

トンキロ法のCO₂排出原単位は、燃料法から生成されている



当委員会が提案する標準的算定式

算定結果の理論的な精度

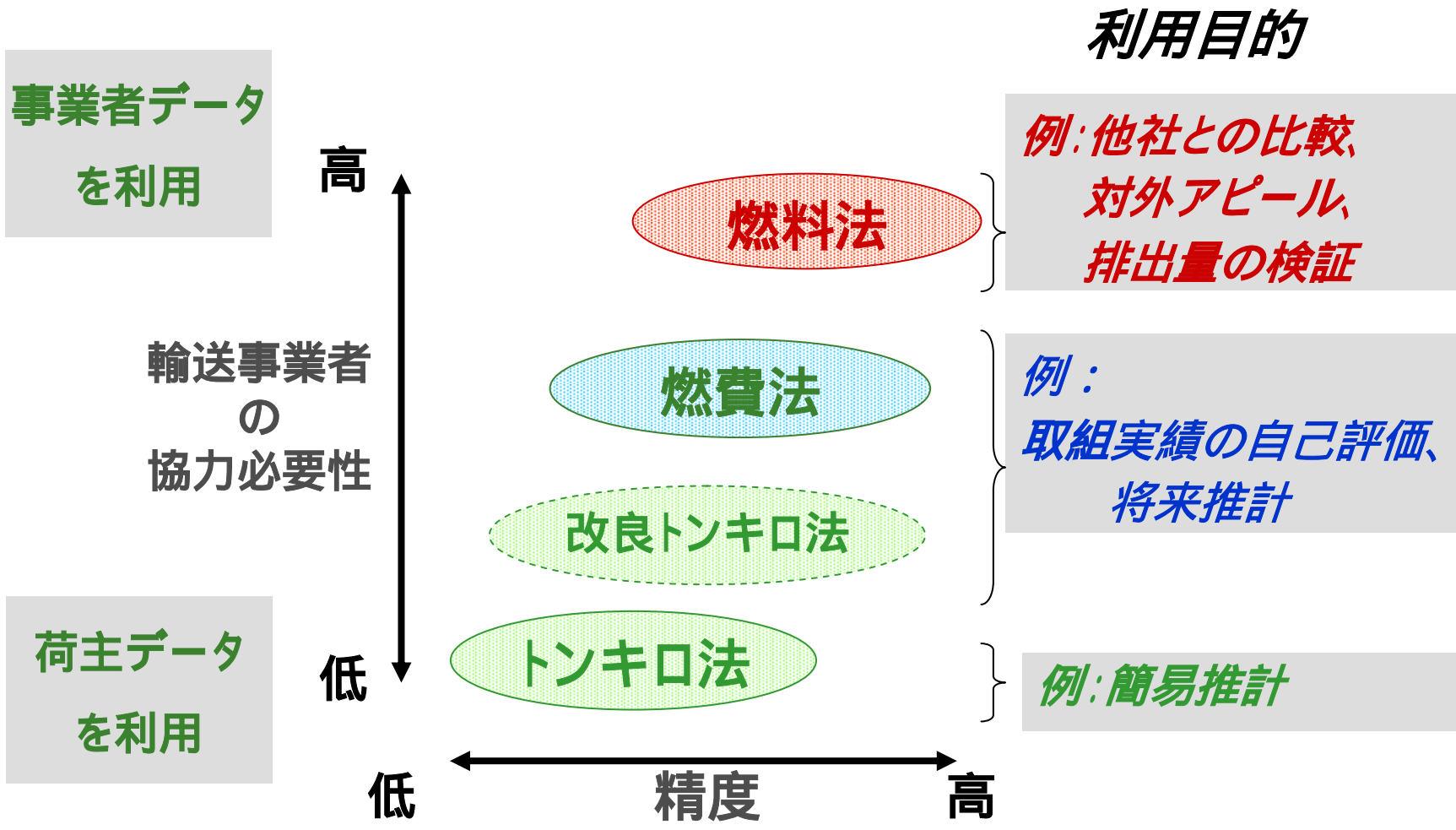
燃料法 > 燃費法 > トンキロ法

・標準式 燃料法

・準標準式 燃費法

・代替式 トンキロ法

算定式の理論的精度と情報連携の必要度の関係



実施上の課題

環境会議メンバーによる算定方法の実行

『二酸化炭素排出量算定ガイド』の利用

二酸化炭素排出係数、二酸化炭素排出原単位
の整備と維持管理

環境省、国土交通省による実行を要望

改正省エネ法の問題

荷主企業

トンキロ法

輸送事業者

燃料法

統一してほしい

2005年度の活動計画

- ・二酸化炭素排出量の按分方法
- ・トラック以外の輸送モードのCO₂算定法
- ・包装資材の環境負荷算定方法 など

【アウトプットの例】

『トラック輸配送の二酸化炭素排出量の按分方法事例ガイド』(仮称)

『二酸化炭素排出量算定のためのデータ収集方法事例ガイド/包装資材版』

ロジスティクス環境会議 リバーズロジスティクス 調査委員会

- ・ 2004年度 活動報告・課題
- ・ 2005年度 活動計画

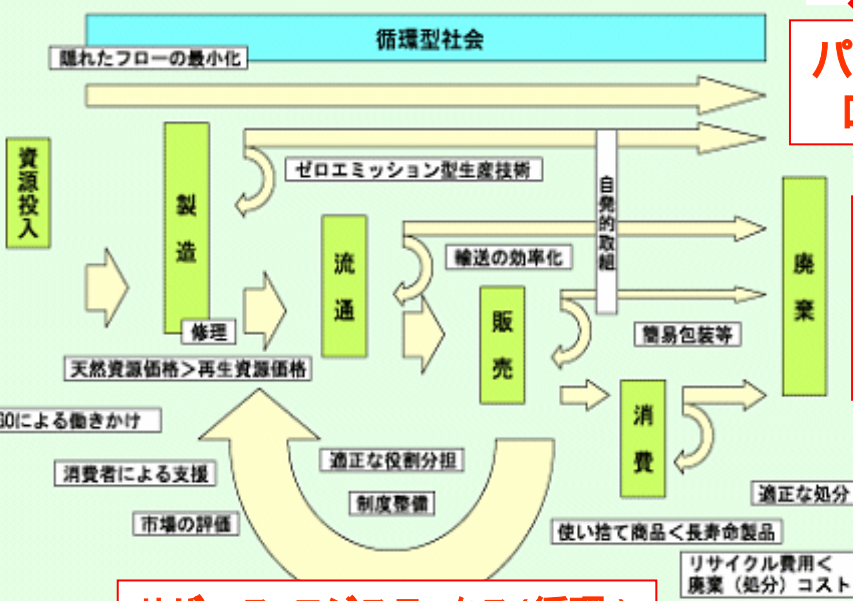
循環型社会システム構築への取り組み

序-3-4図 循環型社会のイメージ

産構審99年7月報告

インプット側

アウトプット側



パイプエント・ロジスティクス

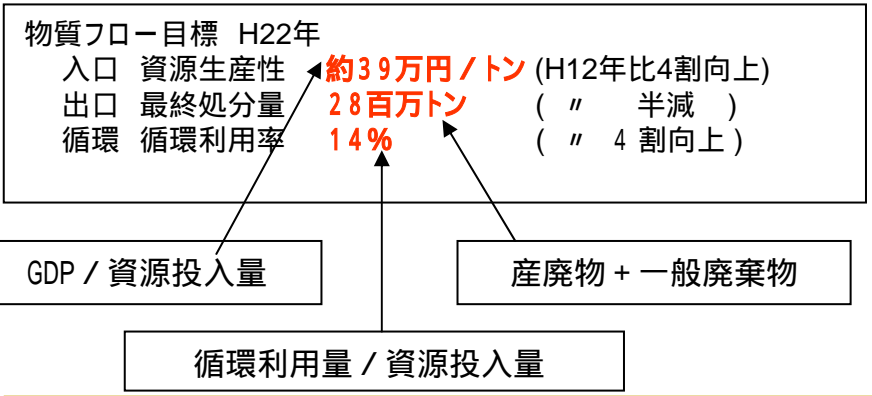
ゼロエミッション

都市鉱山 (油田)

製品3RリサイクルによるCO₂削減効果 実例

リバース・ロジスティクス(循環)

循環型社会形成基本計画 数値目標 (~2010年迄)



R社再生高速複写機(70枚機 重量188Kg)

製造時環境負荷

(部品製造 ~ 製品組立 ~ 納品、回収 ~ 再生組立完了迄)

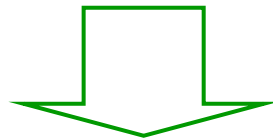
	新造機	再生機	削減
CO ₂ 排出量	1825Kg	1012Kg	813Kg
台当り			45%
軽油換算	697リットル	385リットル	312リットル
ドラム缶	3.5本	1.9本	

10トソ車 1100Km相当

調査対象品目の選定

選定の考え方

1. 委員会参加メンバー 39人の問題意識、
及び 経験・専門知識に配慮
2. 廃棄物削減に効果あり、
且つ 再資源化にも貢献できる品目
3. 生活に身近な品目を優先し、特別な廃棄物
は除く(化学薬品、医療廃棄物等)



4分野(品目)を選定

1. 家電・OA機器	メンバー	12人
2. 自動車	〃	7人
3. 食品	〃	10人
4. 物流(梱包資材)	〃	10人

調査活動の進め方ステップ

現状どうなっているか？

動脈の流れ (5月-9月頃)

どうなっているか？

コメント (判った事)

- ・ビジネスフロー
- ・物の流れ
- ・商流

静脈の流れ

どうなっているか？

コメント (判った事)

- ・ビジネスフロー
- ・物の流れ / 商流
- ・廃棄物発生量
- ・再資源化率 EX.40%

あるべき姿と課題？

(8月-10月頃)

循環型物流 「あるべき姿」は？

動脈 (省資源委員会)

循環型モデル

リバースロジス

- ・ビジネスフロー
- ・物の流れ/商流
- ・廃棄物発生量
- ・再資源化率 EX.95%以上

実現の為に

課題の整理 (困っていること)

- ・
- ・
- ・

改革する為には？

(10月-12月頃)

どんな施策が有効か？

改善策
(これが重要)

例えば

大切な視点

- ・共同化
- ・新技術の適用
- ・法規制
- ・情報化 / 標準化
- ・市場面
- ・店舗での使用済製品の分別方法
- ・社会インフラ (集積所)
- ・部品、原材料メーカーの受入方法
- ・廃棄物業者
- ・消費者/メーカー
- ・流通/物流業者
- ・教育物流スタッフ
- ・ドライバー

企業・行政への提言？

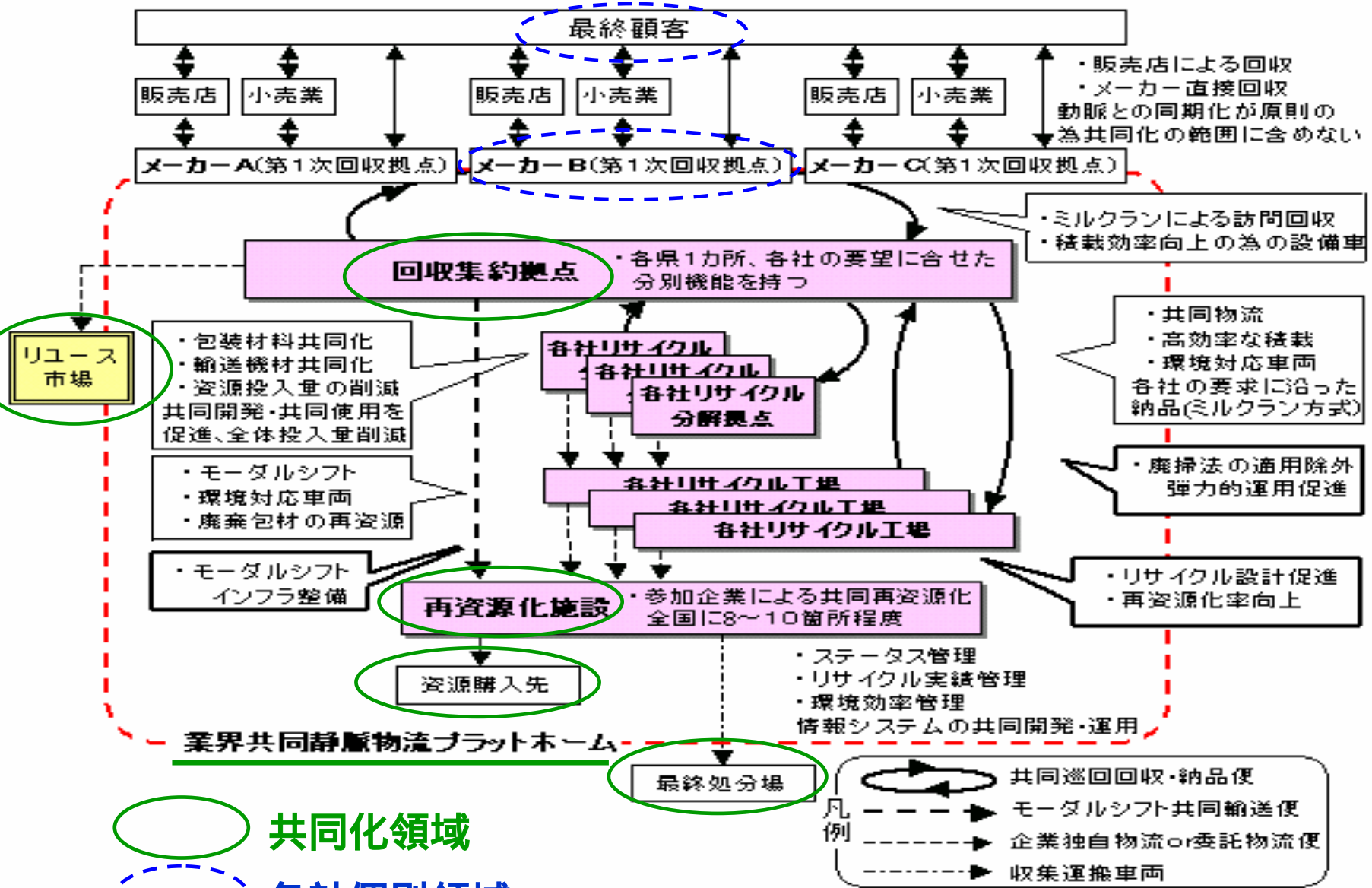
(1月-2月頃)

提言

- ・自主努力
- ・法規制
- ・基盤整備
- ・社会からの支援策 等
- ・回収ネット拠点
- ・分解分別拠点 (リサイクル)
- ・中間処理業者
- ・最終処分業者
- ・回収ツール (ボックス)
- ・ユニットロード化
- ・商品サイズ仕様 標準化
- ・外装表示の標準化

あるべきリバーズ・ロジスティクスの姿(例 家電・OA分野)

【 あるべき姿イメージ 】



共同化領域

各社個別領域

リバース・ロジスティクスを加速する為の課題(サマリー)

企業 / 業界

1. 共同化の推進

積載効率向上、トラック台数削減、包装廃棄物削減など

- ・輸送の共同化 (単独 業界 業種横断)
- ・包装材の共同化 (単独 業界統一化)
- ・輸送車両 / 機器 (単独 業界 業種横断)
- ・新品販売納品時 使用済み製品同時回収の促進 など

2. 標準化の推進

共同化の為に

- ・呼称 / 表示 / 桁数など 相違複雑
- ・帳票類など (縦・横サイズ、記載項目、枚数 …)
- ・データ(通信)フォーマット など

行政 / 自治体

1. 話し合いの場作り

望ましい今後の方向性について

- ・廃掃法他、法規制の対象範囲の見直しと、柔軟な運用
- ・環境負荷削減の実現化のための実証実験モデル事業の追加検討 など

2. 消費者への普及啓蒙

- ・グリーン製品の優先利用ライフスタイルの醸成
- ・使用済み製品など、廃棄物の分別回収への協力

05年度は、これら内容の更なる掘り下げを実施いたします

広報・普及専門委員会
2004年度活動報告と2005年度活動計画(案)

1. 2004年の活動内容

1) 『CGLニュース』と『CGLジャーナル』の企画

本会議をはじめ、各委員会の活動経過、成果等を以下のような情報発信を行った。

(1) 『CGLニュース』(電子メール)

- ・速報的内容とし、2ヶ月1回発行

Vol.1 2004年9月9日

Vol.2 2004年10月1日

Vol.3 2004年11月19日

Vol.4 2005年1月7日

Vol.5 2005年1月28日

Vol.6 2005年2月18日

(2) 『CGLジャーナル』(冊子)

- ・各委員会の活動状況を集約し、4ヶ月1回発行

2005年4月上旬、ジャーナル発行予定

(2004年度活動報告と2005年度活動計画等について)

- ・JILS機関誌『ロジスティクスシステム』にも活動の経過を掲載

2004年10月号

2) シンポジウム、フォーラム等のイベントの実施

各委員会の活動成果等を広く情報発信するため年1回程度、シンポジウムやフォーラム等のイベントを開催した。

「環境調和型ロジスティクス推進フォーラム」の開催

日時：2004年12月17日(金)14:45～17:45

会場：経団連会館

参加者：460名

2. 2005年度の活動計画(案)

1) 『CGLニュース』と『CGLジャーナル』の企画

本会議をはじめ、各委員会の活動経過、成果等を以下のような媒体に取りまとめ、情報発信を行う。

(1) 『CGLニュース』(電子メール)

- ・速報的内容とし、2ヶ月1回発行

(2) 『CGLジャーナル』(冊子)

- ・各委員会の活動状況を集約し、4ヶ月1回発行
- ・JILS機関誌『ロジスティクスシステム』にも活動の経過を掲載

2) シンポジウム、フォーラム等のイベントの企画

各委員会の活動成果等を広く情報発信するため年1回程度、シンポジウムやフォーラム等のイベントを企画する。

2005年11月開催予定

3) オブザーバー会議の企画

オブザーバーである各省庁との情報交換による連携推進および関係省庁に対する提言活動を推進するため、オブザーバー会議を企画する。

参加メンバーは、原則として企画運営委員を中心とする。

4) 関連団体会議の企画

関連団体との情報交換による連携推進および関連団体に対する提言活動を推進するため、関連団体会議を企画する。

参加メンバーは、原則として企画運営委員を中心とする。

3)、4)はグリーン物流パートナーシップ会議等との連携による推進を検討

以上

企画運営委員会からのロジスティクス環境会議（CGL）メンバーへの提案（案）

1. トラック輸配送に関する二酸化炭素排出量算定式について

【目 標】

- ・荷主企業と物流事業者の環境負荷低減活動の成果が正しく自己評価できる算定方法を確立すること
- ・産業界全体で算定を効率的、効果的に行うため、標準的な算定式を選定し、啓発・普及すること

1) 算定式試用（検証）の要請

標準式(燃料法)：二酸化炭素排出量(kg-CO₂) = 燃料使用量(リットル) × 二酸化炭素排出係数(kg-CO₂/リットル)

準標準式(燃費法)：二酸化炭素排出量(kg-CO₂) = [走行距離(km) ÷ 燃費(km/リットル)] × 二酸化炭素排出係数(kg-CO₂/リットル)

代替式(トンキロ法)：二酸化炭素排出量(kg-CO₂) = [輸送重量(t) × 走行距離(km)] × 二酸化炭素排出原単位(kg-CO₂/t・km)

(1) 試用の対象

- ・CGLメンバー

(2) 試用の目的

理論的に設定した算定式の精度を実際の算定結果を使って検証すること
上記算定式をトラック輸配送二酸化炭素排出量の算定に試用し、算定する際の問題点、課題を明らかにすること
の内容を『二酸化炭素排出量算定ガイド』に反映させること

(3) 試用の概要

算定実施範囲・・・ 日本国内、自社でコスト負担しているトラック輸配送
算定実施方法・・・ 算定未実施企業 燃料法、燃費法、トンキロ法のいずれかによる算定
算定実施企業 燃料法、燃費法、トンキロ法の中から複数の算定式を使い、結果を比較
理論的により算定精度の高い式による算定（燃料 > 燃費 > トンキロ）

試用実施期間等の詳細については、後日事務局よりメールにて連絡いたします。
事務局に算定を行う際の問題点、課題および算定結果の提出をお願いいたします。

企画運営委員会からのロジスティクス環境会議（CGL）メンバーへの提案（案）

2) 排出係数、排出原単位の標準的な値の整備とその維持管理に関する要望

(1) 要望先：関係行政機関（環境省、国土交通省）

(2) 要望の趣旨：各企業の算定結果の客観性および公平性を担保するために、以下の3点を要望したい。

- ・排出係数や排出原単位の値の告知
- ・値の変更の告知
- ・過去の値の継続的な提示

例1) 二酸化炭素排出係数：2.62(kg-CO₂/t)・・・2003年（環境省）
出典：『事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン(試案 ver1.4)』環境省
現在ホームページへの掲示なし

現在、以下バージョンアップされた資料が存在するが、変更有無が分かりにくい
『事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン(試案 ver1.5)』
<http://www.env.go.jp/earth/ondanka/santeiho/guide/index.html>

例2) 二酸化炭素排出原単位：0.178(kg-CO₂/t・km)・・・2002年（国土交通省）
普通車は積載量3,000kg以上
出典：『平成14年度版国土交通白書』国土交通省
<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h14/H14/index.html>

現在、改訂された資料が存在し、値が変更されている
『平成15年度版国土交通白書』0.174(kg-CO₂/t・km)
<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h15/hakusho/h16/index.html>

上記は2005年3月15日(火)上記ホームページによる調査

企画運営委員会からのロジスティクス環境会議（CGL）メンバーへの提案（案）

2. リバースロジスティクスの共通プラットフォーム構築の着手

【目 標】

- ・循環型社会の形成を促進するため、リバース（リユース・リサイクル）ロジスティクスのビジネスモデルを構築すること
- ・ビジネスモデルに基づくリバースロジスティクスの活動を効率的かつ効果的に推進するため、共通プラットフォームを構築すること
- ・共通プラットフォームを機能させるために、企業間取引で使用する物品および情報を標準化すること

1) 関係データの提供ならびにヒアリング等の調査の協力要請

(1) 調査協力の対象

CGLメンバー（家電・OA機器、自動車、食品などに関わるメンバー中心）

(2) 調査協力の目的

ビジネスモデルの構築に必要な情報を収集すること

（複数企業・業界における物流に関する取引上の具体的かつ定量的な問題点・課題の洗い出など）

【問題点と課題の例示】

部品名称等の統一化

・A社： 、B社：x

帳票、伝票フォーマットの統一化

・帳票のサイズ A社：たてX cm・よこY cm、B社：たてx cm・よこy cm

情報システムの標準化の推進

・製品と部品コード体系の統一化（記載する項目や桁数などの共通化） など

2) 関連法制度に関する関係行政機関との意見交換の実施

例) 廃掃法、各種リサイクル法など

企画運営委員会からのロジスティクス環境会議（CGL）メンバーへの提案（案）

3. 関連法制度に関する関係行政機関とCGLメンバーとの課題の共有

1) 関連法制度に関する関係行政機関とCGLメンバーとの意見交換会実施の要望

(1) 要望先

CGLオブザーバーである関係各省を中心とした関係行政機関

(2) 要望の趣旨

ロジスティクスの観点から循環型社会の形成に寄与するため、関係行政機関との連携を図ること

(3) 要望の概要

関連法制度（省エネ法、廃掃法、各種リサイクル法等）に関する関係行政機関と産業界（CGLメンバー）の課題の共有

例) 改正省エネ法に関する意見交換

【改正省エネ法のポイント（荷主企業の例）】

趣旨：荷主となる事業者に対し省エネルギーの取組についての義務付けを行う。

対象：自らの事業活動に伴って貨物輸送を委託している者のうち、……………

内容：計画の策定と定期の報告

報告 トンキロ法で算定した二酸化炭素排出量を輸送コスト等で割った値など（年1回主務大臣に報告）

(4) 意見交換実現に向けた基本的な進め方（素案）

CGLメンバーからの要請

企画運営委員会において意見交換すべき内容の確認と調整

事務局がオブザーバーを中心とした関係行政機関へ依頼

関係各省の承諾を得られた後、企画運営委員会あるいは該当委員会にて意見交換を行う。

CGLメンバーへの報告

ＪＩＬＳの今後の取り組みについて

「ロジスティクス環境推進センター」設置について

1．設置の目的

ＪＩＬＳの環境に関する取り組みは、１９９７年の「ロジスティクスにおける環境問題研究会」の発足に始まり、１９９９年の環境調和型ロジスティクスマネジメント調査（ＬＥＭＳ）からその活動が本格化した。さらに、２００３年１１月に、ロジスティクスの側面から循環型社会の形成に寄与するため、「ロジスティクス環境会議」を立ち上げ、行政、産業界、学界等との連携を強化した活動を展開している。

このような状況のもと、２００５年２月には京都議定書が発効するなど、国内外における二酸化炭素を中心とした環境負荷低減の取り組みが進展している中、ＪＩＬＳとして、さらに活動を強化するため、協会内に「ロジスティクス環境推進センター」を設置する。

2．センターの機能と役割

1) ロジスティクス環境会議の運営

- ・ 2005 年度の会議運営と調査研究
- ・ 2006 年度以降の企画開発と関連事業の推進など

2) 関係各省ならびに関係団体との連携推進

- ・ グリーン物流パートナーシップ会議の推進など

3．センターの事業活動

1) 産・官・学の情報収集と情報発信

2) 関係データの収集と情報発信

- ・ 企業の環境パフォーマンスの算定状況など

3) 環境報告書の作成ガイド

- ・ ロジスティクス版環境報告書作成ガイドなど

4) 人材育成プログラムの企画開発・提供

- ・ ロジスティクス環境管理資格制度のカリキュラム開発など

5) 啓発・普及ツール（マニュアル、事例集、調査報告書等）の情報発信

6) 海外関係機関・企業との情報交流

7) その他